

### 若手の早期離職を減らすには？

#### 防げる離職の特徴とコミュニケーション方法

人手不足は企業にとって解決の難しい問題です。人材難は業種や業態、業界の区別なく、あらゆる企業で慢性化しています。

その様な中、せっかく時間とお金をかけて若手社員の採用に成功しても、新卒で入社した社員の約3割は、3年以内に離職してしまいます。今回は、若手の離職の特徴と離職を防ぐための対策についての記事です。

#### ●中小企業では30~40%の若手が3年以内に離職

厚生労働省が公表している「新規学卒者就職率と就職後3年以内離職率」によると、3年以内に離職する新卒者の割合は大卒で32.8%、高卒で39.5%にもものぼります。また、事業規模が小さいほど離職率が高くなる傾向があります。

#### ●若手層の退職理由とは

若手層の退職理由については、男性の1位は「労働時間・休日・休暇の条件がよくなかったため」、2位は「賃金の条件がよくなかったため」、3位は「キャリアアップするため」、4位は「肉体的・精神的に健康を損ねたため」、5位は「人間関係がよくなかったため」となっています。

注目したいのは3位と5位の理由です。例えば3位の「キャリアアップするため」に転職しなくても、今勤務している会社でキャリアアップを目指すという道もあるはずで、5位の「人間関係がよくなかったため」も、何らかの働きかけ次第では改善できそうです。こういった「防ごうと思えば防げる」離職を防ぐためにはどうすればいいのでしょうか。

#### ●早期離職を防ぐ「日頃のコミュニケーション」

・「会社が『実力や成果を正當に評価する』というメッセージを発してくれたり、当時の上司が考えを改めてくれたりしたら、転職しなかったと思う」

・「もし他の部署に異動できるなど、自分自身ももっと成長できる環境があったら、会社を辞めなかったと思う」

などの離職者の言葉から、「離職意思の芽」を早めに摘み取り 日ごろからしっかりとコミュニケーションを取ることが大切なことがわかります。

若手の早期退職を防ぐ狙いで、多くの企業が取り入れているのが「1on1」のミーティングです。日ごろから部下が会社や仕事についてどう思っているのかを感じ取り、「離職意思の芽」になりそうなことに気づく時間として活用できるからです。すでに取り入れている中小企業も少なくないかもしれませんが、単に上司が部下の課題を指摘するだけの時間になっているケースもあるようです。それでは若手社員は心を開いてくれるどころか、ますます何も言えなくなってしまいます。

#### ●離職防止にはじっくり聞く姿勢も大事

大切なのは、「他の社員に聞かれないような場所で行うこと」「上司が部下の話を聞くこと」です。オープンスペースでは、部下が本音を話しづらくなります。また、上司が言いたいことを話すのではなく、部下の話をじっくり聞く姿勢に徹することが重要です。

直属の上長が面談するだけでなく、中小企業であれば経営陣など上層部が直接若手と話す時間を儲けて、不満などを聞くことも必要です。若手が辞めやすい傾向が強い中小企業ほど、意思疎通のしやすさを生かしてコミュニケーションを密に取ることが、早期離職を防ぐ大きな手立てになるのです。仕事のこと、プライベートのことをオープンに話してもらえようになれば、その社員の「本音」が見えてきます。

※バグダイより引用

## 2023年10月からインボイス制度が始まります。

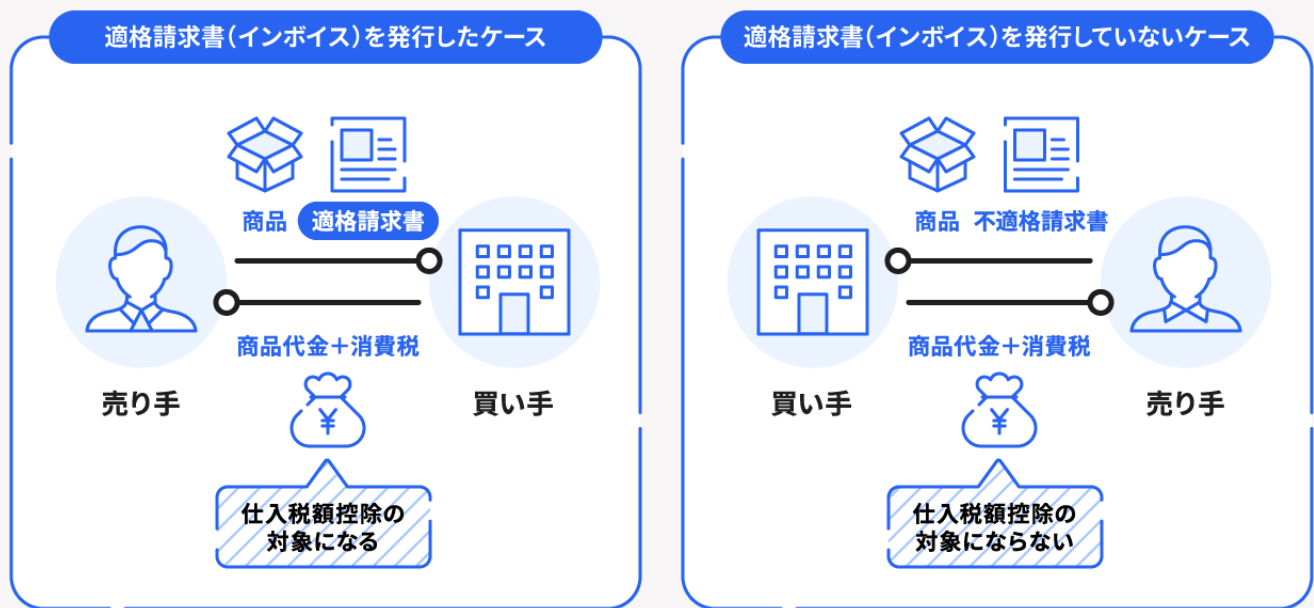
### インボイス制度とは

インボイス制度とは、複数税率に対応した消費税の仕入税額控除の方式で、正式名称は「適格請求書等保存方式」です。インボイス制度導入後は、一定の要件を満たした適格請求書（インボイス）を売り手が買い手に発行し、双方が適格請求書を保存することで、消費税の仕入税額控除が適用されるようになります。

つまり、適格請求書がなければ仕入税額控除は適用されません。

この**適格請求書を発行できるのは、適格請求書発行事業者のみ**です。インボイス制度の開始と同時に適格請求書発行事業者になるためには、2023年9月30日（土）までに登録申請を行わなければなりません。

なお、**適格請求書発行事業者に登録できるのは消費税の課税事業者のみ**です。そのため、免税事業者が適格請求書発行事業者になる場合は、課税売上が1,000万円以下でも消費税の課税事業者となる必要があります。



### 父の日 日本ではいつから始まった？

今年の父の日は、6月18日（日）、毎年6月第3日曜日です。母の日は5月の第2日曜日であることは覚えているけど、父の日をつい忘れてしまう人も多いかもしれませんね。

「父の日」は、昭和25年（1950年）頃にアメリカから日本へ伝わったそうです。その頃「母の日」は既に日本中に広まっていた。父の日が一般に浸透したのは昭和56年（1981年）に「日本ファザーズ・デイ委員会」が設立されてからと言われています。

母の日と言えば、カーネーションを贈りますが、父の日は黄色いバラを贈る人が多いようです。その理由は毎年「ベストファザーイロリーボン賞」として著名人の中から「素敵なお父さん」が選ばれ、そのイメージカラーが黄色なので、父の日に黄色いバラを贈ったり、贈り物に黄色いリボンをつけることが多いようです。黄色は幸福や信頼、愛や尊敬などの象徴の色であることから、父の日のイメージカラーとして選ばれたそうです。日頃なかなか感謝の気持ちを伝えることが無いと思いますので、家族のために日々頑張ってくれているお父さんにも是非感謝を伝えてみてください。

